

知っていますか?
札幌の冬のこと。

雪学習 NEWS

札幌市内
小学校
教諭向け

Since 2016

雪学習NEWSでは、札幌市の小学校教諭を対象に、札幌の冬についての話題や知識などの情報を、冬のシーズンを中心に、定期的にお届けします。

No.05

冬と親しむ

今年の札幌の冬は世界的なイベントが2つもあります。毎年世界中の人を驚かせる大雪像の「さっぽろ雪まつり」、そして、アジアのオリンピック「冬季アジア札幌大会」です。そして、このイベントを支えるのが、気象台の皆さんと除雪にあたる皆さんです。6メートルを超える美しい雪、そこでの生活を支えるインフラの充実、こうした札幌の強みを活かして、世界の皆さんを大歓迎しましょう!

さっぽろ
雪まつり

独占インタビュー! 「進化している雪まつりを楽しんでください!」 さっぽろ雪まつり実行委員会 星野尚夫会長に伺う



世界的にも有名な「さっぽろ雪まつり」がまもなく開催されます。昨年は、なんと260万人を超える観客を集めた「さっぽろ雪まつり」。国内はもちろん外国からのお客さんもどんどん増えているそうです。この札幌市最大のイベントのトップリーダーを長年務める星野尚夫(ほしの・ひさお)さっぽろ雪まつり実行委員会会長にお話を伺いました。

さっぽろ雪まつりは世界一の冬のイベントと言ってもいいのではないのでしょうか。

そうですね。世界一かどうかははっきり言えませんが、本当に規模は大きいと思います。会場は、大通会場、つどいむ会場、すすきの会場の3カ所。雪像中心の大通会場、体験型の遊び中心のつどいむ会場、氷像中心のすすきの会場と特色があり、どこに行っても楽しんでいただけます。今年は、雪像と氷像を合わせて200基設置する予定です。最大の雪像は、高さが18メートルもあるんですよ。これは、ビルの6階程度の高さになります。雪だけでこれだけの大きさのものを作る技術は本当にすごいと思います。今回は260万人以上の方にお越しいただきました。外国からも12万人以上の方がいらっやっています。

世界でも珍しい、雪がたくさん降る大都市札幌ならではのイベントですね。

そうですね、雪像作りに使う雪は、お正月が明けた1月7日から約6,000台のトラックで運びます(5tトラック換算)。南は滝野、北は当別町からも運ぶのです。年間の累積降雪量が6メートルにもなる大都市は、世界中で札幌だけです。しかも、とてもきれいな雪です。雪像は、中から外まで全てきれいな新雪を使います。汚れた雪が混じると解け方にムラが出て危険になるのです。これだけの美しい雪に恵まれていること、そして交通インフラや除雪の整った大都市であることが雪まつり成功の原点と言ってもいいでしょう。

海外にも雪まつりはあるのでしょうか。

カナダや中国をはじめ各国で行われています。札幌の雪まつりにヒントを得ているところもあるようです。「札幌の雪像の設計図を分けて欲しい」とお願いされたこともあるくらいです。もともと、海外の街は札幌のように雪をたくさん使えるところは少なく、氷を使った像で楽しむところが多いようです。これだけ大きくてたくさんの雪像を作るのはさっぽろ雪まつりの最大の魅力と言っていいでしょう。

「雪で作ることができる」ところが札幌の魅力なのですね。

雪で作ることができるので、たくさんの市民参加が可能になっています。もちろん氷像の美しさも素晴らしいですね。ただ、氷は、素人が扱うには大きくて硬くてちょっと難しいところがあります。雪だと初めての人でも扱いやすいですね。実は、5基の大雪像も、2基は自衛隊の皆さんに作っていただいています。残りの3基は、自衛隊OBの皆さんなどに指導していただきながら延べ1000名ほどの市民ボランティアにもお手伝いいただいています。また、大通会場8・9・12丁目の市民雪像は、77基の募集に対して過去最高となる10倍の774グループから申込がありました。雪だからこそその市民参加と言えると思います。

他にも市民の参加があるのでしょうか。

はい、たくさんの市民ボランティアのみなさんが参加してくれています。昨年の場合ですと、延べ人数で福祉ボランティア393人(車いす者介助等)、観光ボランティア100人、通訳ボランティア151人、巡回・迷子ボランティア

279人、雪像制作ボランティア1056人のみなさんにご協力いただきました。この市民の協力体制は世界に誇れるものだと思います。小学生のみなさんも英語などをしっかり勉強して、ぜひ将来手伝ってほしいなと思います。

今年の雪まつりの特色を教えてください。

小学生に大人気のつどいむ会場を大通会場より約1週間早くスタートすることにしました。2月1日(水)~2月12日(日)まで12日間、冬の遊びをたっぷり楽しんでもらえます。このつどいむ会場には、長さ約100メートルの巨大なチューブスライダーやラフティングボートをスノーモービルで引っ張り、雪原を滑走するスノーラフトなど人気のアトラクションがたくさんあります。お国柄の違いなのか、アジアの人は見ることで楽しむ方が多いのですが、欧米の方は見るだけでなく、自分も体験して楽しむ方が多いみたいですね。札幌市の小学生にもぜひ冬の外遊びを楽しんで欲しいです。

大通会場はプロジェクションマッピングで盛り上がっているようですね。

最新の映像技術、音響技術で盛り上げるのがさっぽろ雪まつりの魅力のひとつです。特に、4年前から始まったプロジェクションマッピングは、大人気です。白い雪像に映し出すので色付きや立体感が強調されて、大変美しい映像になります。

このプロジェクションマッピングが始まってから、札幌市民の来場も非常に増えました。実は、雪の解け具合に合わせて毎日プログラムを微調整するので大変なのですが、少しでも美しい映像を見ていただくためにみんながんばっています。

札幌市の子どもたちや教職員へのメッセージをお願いします。

厳しい冬でも、外に出て、スキー、スケートなどのスポーツをやったり、少しでも多く雪と戯れて、たくさんの友達と楽しんでほしいと思います。昔は、たくさんの仲間と外で遊び、本当に心も体も鍛えられました。子どもの時のこうした経験が生きる力の源になっているように思います。ルーツをたどると「雪まつり」という言葉は「雪のお祭り」ではなく、「雪に服う(まつろう)」=「従う」という意味だそうです。昔の人たちは、雪にも敬意を払っていたんですね。雪を大切に、雪を楽しむ札幌の子どもになって欲しいです。そして、札幌の未来に必要なのはやはりたくましく知恵のある人材です。先生たちにとっては、とても苦勞の多い時代だと思いますが、未来に必要な人材を育てている先生たちを心から応援しております。がんばってください。

さっぽろ雪まつり公式サイト<http://www.snowfes.com/>には、詳しい情報が満載です。ぜひご覧ください。

第68回さっぽろ雪まつり 雪氷像(大通会場)一部ご紹介!

大通会場の雪氷像は、毎回、精巧な模型が作られ、雪まつり実行委員会の開催時に報道関係者向けに公開されます。今回は12月16日の実行委員会で開催されました。



前回の雪まつりでも雪像への映像投影で話題となったプロジェクションマッピング(写真右上、出典:HTB)。今回は4丁目STV会場「決戦!雪のファイナルファンタジー」で雪まつり初の最新音響システム「ハイレゾ音源対応7.1chサラウンドシステム」も導入され、究極の臨場感が提供されます。(写真右下、出典:STV)



2丁目会場「道新 氷の広場」の大氷像は、「あったらいいな、こんな家」をテーマに北海道内の小学生から作品を募集し、444点の応募の中から、平岡南小学校5年生 三崎海叶くんの「ホエール・ホーム」が選出されました。(出典:北海道新聞社)



6丁目会場「市民の広場」では、2017冬季アジア大会の公式マスコット「エゾモン」と札幌らしい学校教育キャラクター「ちっぴゅん」「おっほん」「ゆっぼろ」の雪像が作られます。(出典:第8回札幌アジア冬季競技大会組織委員会、札幌市教育委員会、札幌平岸高等学校)



第8回アジア冬季競技大会組織委員会にインタビュー!

2月19日から始まる「2017冬季アジア札幌大会」。今回は、同大会の盛り上げを伝えるために、大会組織委員会の方に取材させていただきました。

「2017冬季アジア札幌大会」は、どのような大会なのでしょう。

冬のスポーツの振興や発展を目的として、OCA(アジア・オリンピック評議会)が主体となって開催される競技会です。アジアの約31の国と地域から選手がエントリーしています。選手はもちろん、私達組織委員会スタッフも、「アジアのオリンピック」を成功させる、という意識で参加しています。

どのような国や地域から選手が参加するのですか。

多くの競技にエントリーしているのは、日本、中国、韓国、カザフスタンですが、赤道に近い国もエントリーしています。インドネシア、マレーシア、タイ、インドなどの東南アジアの国々や、イラン、レバノン、アラブ首長国連邦など、中東の国々からのエントリーもあります。また今回は、オーストラリアとニュージーランドの選手もゲスト参加ということでいくつかの競技に参加します。

ズバリ、おすすめの競技は?

どの競技もおすすめです。スピードスケート以外のすべての種目が札幌市内で行われます(スピードスケートは帯広市で開催)。多くの日本人選手も出場予定です。スキーとスノーボードのアルペン、フリースタイルは、それぞれサップロテイネススキー場とさっぽろばんけいスキー場で開催されますが、こちらは無料で観戦できます。また、アイスホッケー、カーリングも暖かい国の選手がエントリーしています。雪のない国の選手たちにも注目し、彼らの健闘に熱い声援をお願いします。



広報係の砂倉由美さん



広報係長の金野吉宏さん

開催地としての札幌市の強みは?

札幌市は、良質な雪が降り、競技会場と都心が近い世界的にも珍しい都市です。そういう意味では、とても恵まれており、貴重な環境だと思います。さらに、過去にオリンピック開催地としての実績があるというのも大きな強みです。本大会では様々な種目が市内の複数の競技場にて行われますが、それぞれの場所へのアクセスのしやすさは抜群です。また、大倉山ジャンプ競技場は、アジア地域に二つしかないラージヒルのうちのひとつ。眼下に迫り来る街並みを見ながら飛ぶことができるジャンプ台は、世界的にも珍しいと言われています。

最後に、子どもたちへメッセージをお願いします。

「2017冬季アジア札幌大会」は、札幌オリンピック以来の大規模な国際大会です。ぜひたくさんのお子たちに、競技の迫力や会場の一体感を味わってほしいと思います。スピードスケートやアルペンのスピード感、アイスホッケーの選手がぶつかり合う音、スキーのジャンプ台やスノーボードのハーフパイプの高さなどは、実際に会場で観戦してみると迫力が全然違います。冬の屋外なので寒いのですが、普段から元気に外で雪遊びをして、寒さに負けない体づくりをしておいてほしいと思います。そして、ご家族でぜひ会場へ足を運び、ウィンタースポーツの魅力を満喫いただければと思います。



ぜひ、ご家族で見に来てください!

なるほど!札幌の冬 ~朝の会で使える小ネタ~ 実物投影機で大きく映そう!!

天気予報を支える二つの知恵

日本の天気予報は8割以上当たるそうです。これは、世界の中でも高い割合です。この正確な予報は、どのように出されるのでしょうか。

日本の天気予報は、二つの知恵に支えられています。一つ目は、コンピューターの知恵です。1秒間に約850兆回もの計算を行う高性能なスーパーコンピューターで、大気状態の変化を計算し続け、2、3日先の予測をしています。

二つ目は、人の知恵です。天気は、大気状態に加えて、局地的な風向、地形が大きく関係します。それぞれの地域の特徴を踏まえて、予報官が天気を判断します。ここには、長年積み重ねた調査研究と予報官の経験が生かされます。

天気予報では、この二つの知恵が融合します。スーパーコンピューターが出した予測を基に、予報官が天気を判断します。時には、地形などの影響を考慮しコンピューターの予測を予報官が修正する場合があります。これは、地域の特徴を知り尽くした予報官の職人技なのです。

私たちの冬の安全は、スーパーコンピューターという最先端技術と予報官による職人技の二つの高い技術で守られているのです。



写真提供: 気象庁

【天気を予測するスーパーコンピューター】

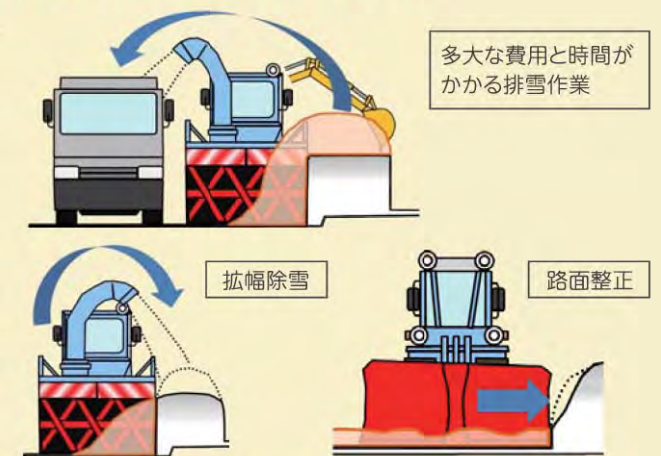


【情報を基に天気予報を出す札幌管区気象台の予報官】

Q&A

Q.雪が多い年はどうやって除排雪をするのですか?

A. 雪が多く降ると、除雪で道路わきに寄せられてきた雪山が大きくなり、道幅が狭くなって通行に支障を来すため、排雪作業を行います。しかし、排雪作業は、雪山を崩す作業や雪堆積場への運搬作業などが伴い、多大な費用と時間がかかるため、幹線道路と一部の通学路のみに限定し、一路線につき年1回分の予算しか計上できません。そこで、排雪作業以外に、道幅を広げる「拡幅除雪」をしたり、路上の厚くなった雪を削り取る「路面整正」を行うなど、限られた予算の中で作業時期を調整しながら効率良く1シーズンを乗り切るように努めています。



多大な費用と時間がかかる排雪作業

拡幅除雪

路面整正



指導致や教材などを今後、随時ダウンロードできるように準備しています。

【ホームページ】<https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/yukigakushu/>

札幌雪学習

検索

雪に関する写真や動画等、いろいろあります!

【発行・お問合せ】札幌雪学習プロジェクト事務局(札幌市建設局雪対策室事業課) TEL:011-211-2662 FAX:011-218-5141